

第11回選定のグランプリ及び優秀賞（案）

令和6年11月25日

「ディスカバー農山漁村の宝」(第11回選定)選定地区一覧(案)

むら

九州・沖縄
【教育機関との連携、食育・教育、学生・若者の活躍】
No.26 福岡県 北九州市
NPO法人SDGs Spiral
【農業、復興、農福連携】
No.27 熊本県 大津町
株式会社なかせ農園
【6次産業化、企業との連携、学生・若者の活躍】
No.28 大分県 豊後大野市
株式会社豊後大野クラスター
【農業、環境保全、教育機関との連携】
No.29 沖縄県 糸満市
糸満市地域農地・水・環境保全管理協定運営委員会
【農業、6次産業、食育・教育】
No.30 沖縄県 読谷村
島袋 みさえ

中国
【伝統の継承、教育機関との連携、食育・教育】
No.19 鳥取県 琴浦町
出上農地・水保全活動組織
【水産業、雇用、地域資源の活用・雇用の増大】
No.20 島根県 西ノ島町
中上 光
【荒廃農地対策、地域のスマート化、中山間地域のデジタル化】
No.21 岡山県 真庭市
吉緑起村協議会
【地産地消、移住・定住、食育・教育】
No.22 山口県 岩国市
株式会社神東ファーム

四国
【農業、企業との連携、学生・若者の活躍】
No.23 愛媛県 松山市
きりぬき
【農業、地産地消、学生・若者の活躍】
No.24 愛媛県 宇和島市
愛媛県立北宇和高等学校三間分校 地域情報ビジネス部
【水産業、6次産業化、食育・教育】
No.25 高知県 中土佐町
大正町市場協同組合

近畿
【地産地消、伝統の継承、食育・教育】
No.17 滋賀県 守山市
もりやま食のまちづくりプロジェクト
【農業、6次産業化、伝統の継承】
No.18 奈良県 宇陀市
宇陀市古民家活用地域活性化協議会



北陸
【農業、復興、多様な分野との連携】
No.11 石川県 七尾市
小澤 善昭
【農業、多様な分野との連携、その他】
No.12 福井県 越前町
MISAKI CREATORS
【スマート農林水作業、農福連携、関係人口の創出】
No.13 福井県 あわら市
有限会社あわら農楽ファーム

東海
【農泊、農村文化体験、農村環境・景観保全】
No.14 岐阜県 八百津町
80%山のまちを元気にする協議会
【荒廃農地対策、食育・教育、関係人口の創出】
No.15 愛知県 岡崎市
NPO法人おかざき農遊会
【都市農業、地産地消、荒廃農地対策】
No.16 愛知県 大口町
服部農園有限会社

北海道
【農業、林業、地産地消】
No.01 北海道 北見市
株式会社エース・グリーン
【水産業、環境保全、水産畜産連携】
No.02 北海道 積丹町
北海道積丹町におけるブルーカーボン創出プロジェクト協議会
【伝統の継承、食育・教育、学生・若者の活躍】
No.03 北海道 幌加内町
北海道幌加内高等学校

東北
【農業、企業との連携、関係人口の創出】
No.04 青森県 弘前市
ひろさき援農プロジェクト
【農業、農福連携、食料安全保障強化】
No.05 秋田県 横手市
Piz株式会社
【農業、教育機関との連携、農村環境・景観保全】
No.06 秋田県 横手市
秋田県南旭川水系土地改良区
【輸出、地産地消、伝統の継承】
No.07 山形県 西川町
有限会社玉谷製麺所

関東
【環境保全、学生・若者の活躍、関係人口の創出】
No.09 群馬県 沼田市・片品村
群馬県立尾瀬高等学校
【農業、6次産業化、雇用】
No.10 山梨県 身延町
あけぼの農園株式会社

- :「ビジネス・イノベーション部門」
- :「コミュニティ・地産地消部門」
- :「個人部門」

計:30地区



第11回選定のグランプリ及び優秀賞（案）

グランプリ

ほっかいどうほろかないこうとうがっこう

北海道幌加内高等学校

コミュニティ・地産地消部門

うりゅうぐんほろかない ちょう

(北海道雨竜郡幌加内町)

・冬期間の気候の厳しさと多雪、酷寒と天候に左右される農業経営の難しさ、都市への流出により急激に人口が減少。作付面積日本一の「そばの町」のそば打ち技術や伝統継承が課題。

・平成14年から必修科目として「そば」の授業を新設。身につけた技術を活用し、全道各地のイベントにそば打ちの実演で参加、来場者に高い技能を披露。さらに、高校生が講師役をするそば打ち交流でも活かし、町内の小中学校とは継続的にそば打ちを通じた交流を推進。

・町民のそば打ち技術や伝統を継承した生徒は、全道協主催「そば道段位」の初段以上を全員が取得。部活動の「そば局」は全国高校生そば打ち選手権団体戦で過去4連覇を含む7回優勝。高い技術を持った生徒は卒業後にそば打ちを武器に活躍する者も多く、国内だけでなく海外でもそば職人として働き、幌加内町の観光資源である「そば」の素晴らしさを世界へと発信。

・例年9月上旬に行われる幌加内町最大のイベント「新そば祭り」では、手打ちそばを2,000食以上販売、町内の小中学校や海外とのそば打ち交流のほか、地域と関わる機会も多く人口減少の課題にも町民と一緒に取り組むなど地域に欠かせない存在となっている。



【有識者懇談会委員のコメント】

- ・教育やアカデミックな裏打ちも入れながら、人材育成と地域資源活用によるコミュニティ活性化を実現している。
- ・どうしても外に目がいきがちだが、そば生産量日本1位という地元の強みをいかし、それを町内の小中学生との交流により継承している点が高く評価できる。
- ・生徒達の自主性、行動力、考える力を評価。
- ・全国で唯一、町立高校でそばの授業を開設、高校生が「そばの町 幌加内」を強く意識しながら学習活動を行っている。

優秀賞

えんのう

ひろさき援農プロジェクト

コミュニティ・地産地消部門

ひろさきし

(青森県弘前市)

・りんごが原料のシードルを製造・販売するニッカウキスキー(株)及びアサヒビール(株)社員がりんご作業の援農ボランティアに令和2年度から従事。両社からの企業版ふるさと納税を財源に、両社と弘前市、(株)JTBによる官民連携の援農ツアーを実施。

・援農ボランティアを受け入れた29戸の農家からは本事業へ参加して良かったとの声が届くとともに、ツアー後に参加者から弘前市へふるさと納税が寄附されるなど関係人口の増加にも寄与。



【有識者懇談会委員のコメント】

- ・多様な組織が連携をしてコミュニティを形成し、共創による活動で成果を出している。
- ・企業版ふるさと納税制度を有効活用、官民連携の成功例。
- ・大手まで巻き込んでのプロジェクトを作り、多様な活動をしている点が評価できる。
- ・りんごを基軸とし官民連携で企画を実施。りんご産業の活性化や関係人口の増加等を図る取組を行っている。

第11回選定のグランプリ及び優秀賞（案）

優秀賞

コミュニティ・地産地消部門

ぐんまけんりつおぜこうとうがっこう
群馬県立尾瀬高等学校

ぬまたし・とねぐんかたしなむら）
(群馬県沼田市・利根郡片品村)

- ・平成8年に自然を活用したフィールドワーク中心の教育を展開する自然環境科を全国で初めて設置し、尾瀬ヶ原を中心とした豊かな自然を学び、自然保護の意義と普及活動を行っている。自然環境をフィールドにした「探究的な学び」を受けたい子どもたちが、全国各地から入学できる制度として地元家庭等へのホームステイ制度「尾瀬ハートフルホーム・システム」を整備。
- ・地元団体との協働によりシラネアオイ保護活動を30年以上行っているほか、水芭蕉栽培・育成を行う水芭蕉プロジェクトでは地元企業3社と連携、100名が参加。「自然と共生できる人づくり」を通じて、机上の学びでは得にくい自己有用感等が向上。柔軟なアイデアの提供と実践活動をとおして地域を元気にし、卒業生の多くが地域活性化のために活躍。



【有識者懇談会委員のコメント】

- ・歌でも知られる尾瀬の蕉を高校が全国からホームステイの留学制度を整え、自然と共生する人づくりに取り組んできた試みがすばらしい。
- ・多様な活動とともに、地域外の子供たちの受入れ、且つ、ホームステイで受け入れる取り組みはオリジナル性に富んでおり、素晴らしい。

優秀賞

ビジネス・イノベーション部門

かぶしきがいしゃ
株式会社エース・クリーン

きたみし
(北海道北見市)

- ・北海道林産試験場や帯広畜産大学、山形大学といった研究機関とともに、地方行政機関、地域木材を提供する木材業者、飼料消費者の畜産農家といった多角的な関係者とのチームにより未利用・低利用木材を活用した飼料の開発を推進。
- ・高温高圧の水蒸気で加工する「蒸煮（じょうしゃ）」という技術メリットを最大限に生かし、原材料は木と水だけながら飼料としての高い嗜好性と機能性、ユーザーの利便性を追求・実現したことで、発売当初（平成30年）135 tだった販売出荷量は令和5年には約3,000 tとなり、売上は1.7億円に増加。



【有識者懇談会委員のコメント】

- ・地産地消のエネルギーで地域の資源を守っていく取り組みが貴重で価値がある。
- ・新技術により地域資源を家畜飼料に。
- ・新技術の研究により、全国各地の未利用・低利用の木質資源を活用した飼料自給率の向上など他地域の参考となることが期待できる。

優秀賞

ビジネス・イノベーション部門

ほっかいどうしゃこたんちょう
北海道積丹町におけるブルーカーボン創出プロジェクト協議会 (北海道積丹郡積丹町)

しゃこたんぐんしゃこたんちょう

- ・海の森づくりとして藻場を食べ尽くすウニを除去し海藻の畑を作り、胞子を出すコンブを移植し、更にウニ剥き身後の殻を用いたコンブ用施肥材を設置するなどウニと藻場の循環型再生産による持続可能な漁業を実践。
- ・造成された藻場ではウニ剥き身量は1.55倍となり、販売額約3,550万円の増加。再生藻場によるCO2吸収量はブルーカーボンクレジットとして取引を開始。



【有識者懇談会委員のコメント】

- ・SDGsの好例。漁業者、企業の有効コラボ。今後の永続的な取組の見本になる。
- ・藻場の再生活動が他の地域への良い先例となる、育てる漁業。
- ・全国的に問題になっている「磯焼け」の拡大。藻場の回復、漁獲したウニの殻の有効活用による循環再生だけでなく、他事業分野との連携が評価できる。

第11回選定のグランプリ及び優秀賞（案）

優秀賞

なかがみ ひかり
中上 光

個人部門

おきぐんにしのしまちょう
(島根県隠岐郡西ノ島町)

・故郷の海を活かした生活がしたいと考え、昭和53年にイタヤ貝の養殖を始めたが、収入時期が限定的であるため、地元の海に生息していた大きな天然のイワガキに着目。

・イワガキの完全養殖に成功し、所得向上のみならず、地域の雇用創出にも大きく寄与。「隠岐のいわがき」としてブランド化し、令和5年度には隠岐地域で31経営体がイワガキ養殖業を営んでおり、水揚金額は全体で1.8億円となった。



【有識者懇談会委員のコメント】

- ・ 離島の水産資源を自然をこわさずに活用し、活性化させている。天然プランクトンで成長するイワガキは「養殖ガキ」の概念を超えている。
- ・ イワガキを活用した地域への貢献は素晴らしい。
- ・ イワガキの完全養殖に成功。安心して安全な生食用イワガキとして高い評価を受けて、2億円近い売り上げを上げる。